

- 問1 8世紀から9世紀にかけて、朝廷が東北地方への支配を拡大していく過程で、蝦夷の抵抗を抑え込むために坂上田村麻呂が任命された役職は何ですか。 (2020年 島根県公立入試 類似)
1. 征夷大將軍 2. 防人 3. 太政大臣 4. 摂政
- 問2 11世紀半ば、摂政・関白として権勢を誇った藤原頼通が、京都の宇治に極楽浄土の様子を再現しようとして建立した、阿弥陀如来を本尊とする代表的な建築物はどれか。 (2018年 鳥取県公立入試 類似)
1. 平等院鳳凰堂 2. 鹿苑寺金閣 3. 東大寺大仏殿 4. 慈照寺銀閣
- 問3 7世紀初め、聖徳太子が小野妹子らを派遣し、当時の中国の王朝から進んだ制度や文化を直接導入しようとした使節の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2017年 山口県公立入試 類似)
1. 遣唐使 2. 通信使 3. 遣明使 4. 遣隋使
- 問4 8世紀末にあたる794年、桓武天皇が都を平安京へと移した主な理由として、当時の政治的背景に基づいた説明として適切なものはどれですか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 元（モンゴル帝国）による襲来に備え、防御に適した内陸部に都を構えるため 2. キリスト教の布教を制限し、幕府による全国支配を強固にするため 3. 平氏による武家政権を樹立し、海外貿易を活発にする拠点とするため 4. 仏教勢力が政治に介入することを避け、天皇中心の政治を立て直すため
- 問5 894年、唐の国力が衰えていることや往復の航路が危険であることを理由に、それまで約200年続いていた遣唐使の派遣を停止するよう宇多天皇に建議した人物は誰ですか。 (2026年 福島県公立入試 類似)
1. 聖徳太子 2. 藤原頼通 3. 平清盛 4. 菅原道真
- 問6 平安時代中期、藤原氏が自身の娘を天皇の妃（きさき）とし、その間に生まれた子が天皇になると、幼少期には摂政、成人後は関白という職について政治の実権を握りました。このような政治体制を何といいますか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
1. 親政 2. 院政 3. 摂関政治 4. 執権政治
- 問7 平安時代末期、平氏の棟梁である平清盛は、武士として初めて太政大臣に就任し、朝廷内で強大な権力を振るいました。清盛が権力を維持するためにとった手法として、清盛の娘である徳子を高倉天皇の後（きさき）とし、その間に生まれた安徳天皇を即位させたことが挙げられます。このように、天皇の母方の親戚として政治の実権を握る立場を何といいますか。 (2023年 京都府公立入試 類似)
1. 執権 2. 摂政 3. 外戚 4. 関白
- 問8 平安時代中期、中央の朝廷から諸国に派遣され、現地の政治や徴税の実務を担っていた役職を何と呼ぶか、次の中から選びなさい。 (2016年 広島県公立入試 類似)
1. 戦国大名 2. 将軍から領地を与えられた大名 3. 国司 4. 県令
- 問9 平安時代の皇族と藤原氏のつながりを示す系図において、藤原道長が自分の娘である彰子などを次々と天皇の後（きさき）にし、その子供が天皇に即位する流れが繰り返されていることがわかります。藤原氏がこのようにして権力を独占した手法と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)
1. 武士団を組織して軍事的な圧力をかけ、太政官などの伝統的な行政組織を廃止するため 2. 天皇の母方の祖父（外戚）という立場を確立し、天皇を後見することで政治の実権を握るため 3. 天皇の位を廃止して、藤原氏自らが新しい王朝を開くための正当性を得るため 4. 遣唐使を通じて得た海外の知識を独占し、天皇を政治から遠ざけて知識層による共和制を行うため
- 問10 平安時代末期、武家として初めて太政大臣の地位に就いた平清盛が、兵庫の「大輪田泊」を修築して積極的に推進した、大陸の王朝との貿易について述べた文として正しいものはどれか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
1. 明の皇帝から日本国王に封じられたことをきっかけに、勘合という礼を用いて倭寇と区別しながら貿易を行った。 2. 元の侵攻に備えるため、大陸との貿易を厳しく制限し、博多に防塁を築いて沿岸部の警備を強化した。 3. 唐との貿易を再開し、遣唐使を通じて最新の律令制度や仏教文化を導入することで、中央集権国家の確立を狙った。 4. 宋との貿易を盛んに行い、輸入された大量の銅銭は日本国内で貨幣として流通し、経済の活性化につながった。
- 問11 12世紀半ばの保元の乱などで後白河天皇側に従って戦い勝利を収めた後、武士として初めて太政大臣となり政治の実権を握った人物として適切なものはどれですか。 (2025年 熊本県公立入試 類似)
1. 源頼朝 2. 藤原清衡 3. 平清盛 4. 平将門
- 問12 平安時代、藤原氏が天皇を補佐する重要な役職に就いて政治の実権を握った体制について、天皇が幼少のときには摂政、成人した後には関白としてその実務を担った政治形態の名称を選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 公武合体政治 2. 武家政治 3. 院政 4. 摂関政治
- 問13 平安時代の政治状況について、ドイツ出身のエマさんと日本の高校生が会話をしています。この時代の地方政治の実態を説明する内容として正しいものはどれですか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
1. 国司は中央から派遣される役人であったが、この時期にすべて武士へと置き換わり、封建的な主従関係が確立した。 2. 一部の有力な国司は受領と呼ばれ、任地に赴いて徴税に励む一方で、私的な蓄財を行うなど地方政治が混乱する要因となった。 3. 地方政治の乱れを解決するため、天皇が直接地方を統治する親政が始まり、国司制度は完全に廃止された。 4. 全国の農村で二毛作が一般化し、経済的に豊かになった農民が国司の権限を代行するようになった。
- 問14 藤原道長が「この世をば我が世とぞ思う…」と詠んだ時期の状況を、家系図や当時の役職の変遷から説明したものとして、正しい内容はどれですか。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
1. 道長は4人の娘を次々と天皇の后に入れ、その子供たちを天皇に即位させることで、摂政や関白の地位を揺るぎないものにしていった。 2. 道長は天皇を退位させた後、自らが新しい血統の天皇として即位し、藤原氏による王朝を創設しようとしていた。 3. 道長は娘を貴族たちと結婚させることで、有力貴族をすべて藤原氏の養子とし、一族の人数を増やすことで議會を支配していた。 4. 道長は天皇の父方の親戚として、軍事指揮権を持つ征夷大將軍の職を世襲し、幕府を開く準備を進めていた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 征夷大將軍	桓武天皇の時代、朝廷は東北地方の支配を確実なものにするため、大規模な軍隊を派遣しました。坂上田村麻呂はこの軍の指揮官である征夷大將軍に任命され、蝦夷の指導者であったアテルイを降伏させるなど、朝廷による東北支配を大きく前進させました。
問2	答え 1 平等院鳳凰堂	藤原氏が最も繁栄した摂関政治の時期に建立されました。当時の貴族たちは、現世での繁栄だけでなく、死後に極楽浄土へ行けることを強く願っており、その理想の世界を視覚的に表現したものがこの建物です。
問3	答え 4 遣隋使	聖徳太子は、それまでの朝鮮半島を経由した交流だけでなく、中国の隋と直接外交を行うことで大陸の進んだ政治制度や仏教を導入しようとしてしました。このとき派遣されたのが遣隋使です。その後、隋に代わって中国を統一した唐に対しても同様の使節（遣唐使）が送られるようになり、日本の国家体制の整備に大きな影響を与えました。
問4	答え 4 仏教勢力が政治に介入することを避け、天皇中心の政治を立て直すため	奈良時代（8世紀の大半）は、平城京を中心に仏教を厚く保護する政治が行われましたが、次第に東大寺などの僧侶が政治に強く関与し、天皇の権威を脅かすようになりました。桓武天皇はこうした仏教勢力の影響を断ち切り、政治を刷新して天皇の力を回復させるために、784年の長岡京遷都を経て、794年に平安京へと都を移しました。
問5	答え 4 菅原道真	唐の政治的混乱や衰退を背景に、多大な費用と危険を伴う遣唐使の中止を提案しました。この遣唐使の停止は、その後の日本独自の文化である「国風文化」が発展する大きな要因となりました。
問6	答え 3 摂関政治	摂政は天皇が幼いときや女性であるときに代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を司る役職です。藤原氏はこれら二つの官職を独占することで、天皇に代わって政治を主導しました。この仕組みは藤原道長・頼通の親子が権勢を振るった時期に全盛期を迎えました。
問7	答え 3 外戚	平清盛は、かつて藤原氏が摂関政治において用いた手法を参考にしました。自分の娘を天皇の后にし、その子供（自分の孫）を天皇として即位させることで、天皇の祖父にあたる「外戚」という立場を築き、政治的な発言力を強めました。これにより、平氏一門は朝廷の重要な役職を独占することに成功しました。
問8	答え 3 国司	律令制のもとで中央政府（朝廷）から地方の「国」に派遣された官吏を国司と呼びます。平安時代中期には、戸籍による統治が困難になったことを背景に、朝廷は国司に現地の支配や徴税を大幅に委ねるようになりました。
問9	答え 2 天皇の母方の祖父（外戚）という立場を確立し、天皇を後見することで政治の実権を握るため	藤原氏は「外戚（がいせき）」、つまり天皇の母方の親戚となることで、宮廷内での発言力を極限まで高めました。藤原兼家や道長は、娘を天皇の妃として送り込み、生まれた皇子が即位すると、その祖父として摂政などの要職に就きました。これは武力によるクーデターではなく、当時の婚姻制度や家族形態を利用した権力独占の仕組みです。
問10	答え 4 宋との貿易を盛んに行い、輸入された大量の銅銭は日本国内で貨幣として流通し、経済の活性化につながった。	平清盛は、自身の権力基盤を強化するために日宋貿易を主導しました。現在の神戸市にあたる大輪田泊を整備して大型船の出入港を可能にし、宋から輸入された「宋銭（銅銭）」は国内で広く使われるようになり、貨幣経済の発展に大きく寄与しました。他の選択肢にある「唐」は平安時代中期以前、「元」は鎌倉時代、「明」は室町時代の出来事であり、時代背景が異なります。
問11	答え 3 平清盛	12世紀半ばに起きた保元の乱などで後白河天皇側に従って勝利を収めた平清盛は、武士として初めて太政大臣となり政治の実権を握りました。
問12	答え 4 摂関政治	藤原氏が「摂政」と「関白」の役職を独占して行った政治の仕組みを指します。天皇が幼いときや女性である場合に代わって政務を行うのが摂政、天皇が成人した後にその相談役として政務を助けるのが関白であり、これらを合わせて摂関家と呼ばれる家系が確立されました。院政は天皇が譲位した後の上皇が行う政治、武家政治は鎌倉幕府以降の武士による政治を指すため、これらとは区別する必要があります。
問13	答え 2 一部の有力な国司は受領と呼ばれ、任地に赴いて徴税に励む一方で、私的な蓄財を行うなど地方政治が混乱する要因となった。	平安時代の国司には、任地へ行かない遙任のほか、実際に任地に赴く「受領」もいました。受領は徴税の権限を強く持ち、私欲を肥やす者も多く現れたため、農民がその暴政を訴えるなど、地方政治の混乱が深刻化しました。武士の主従関係や二毛作の一般化は後の時代に見られる特徴です。
問14	答え 1 道長は4人の娘を次々と天皇の后に入れ、その子供たちを天皇に即位させることで、摂政や関白の地位を揺るぎないものにしていた。	藤原道長は、複数の娘を時の天皇の后（中宮など）にすることに成功しました。その結果、生まれた子が次々と天皇になったため、道長は常に「天皇の母方の祖父」という最強のポジションを維持できました。これが藤原氏の全盛期をもたらした最大の要因です。